

# 事後評価結果（平成15年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課  
担当課長名：高松 泰

事業名	一般国道275号 <sup>ついでかり</sup> 対雁 拡幅		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局	
起終点	自：北海道江別市兵村 至：北海道江別市角山			延長	3.6 km		
<b>事業概要</b> 一般国道275号は、北海道の中核都市である札幌市を起点に当別町、幌加内町を經由し、浜頓別町に至る延長28.2kmの幹線道路であり、道央圏と道北圏を連絡する重要な路線である。 このうち対雁拡幅は、江別市郊外に位置する延長3.6kmの2次改築事業である。							
<b>事業の目的・必要性</b> 一般国道275号対雁拡幅は、交通混雑の緩和や冬期の吹雪対策を行うことにより日常活動圏中心都市へのアクセス向上・物流の効率化・地域プロジェクトの支援などに寄与するものである。							
<b>事業概要図</b> 							
事業の 効果等	事業期間	事業化年度：S62年度 都市計画決定：H-年度	用地着手：S63年度 工事着手：昭和63年度	供用年：(当初)H 8年度 (暫定/完成)：(実績)H10年度	変動	1.2倍	
	事業費	計画時：(名目値) 83.9億円 暫定/完成)：(実質値) 86.3億円	実績：(名目値) 93.7億円 暫定/完成)：(実質値) 95.8億円		変動	1.1倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (工事着手時の交通量)	20,657台/日	実績	22,313台/日	変動	+8%
	旅行速度向上	40.7 (供用前現道 当該路線)	51.0km/h (供用直前年次) H 2年度 (供用後年次) H15年度	交通事故減少	76.7 (供用前現道 供用後現道)	44.1件/億台扣 (供用直前年次) H 4年度 (供用後年次) H11年度	
	費用対効果 分析結果 (事後)	B / C 3.7	総費用：145 億円 (事業費：145 億円 維持管理費：0 億円)	総便益：533 億円 (走行時間短縮便益：518 億円 走行経費減少便益：10 億円 交通事故減少便益：5 億円)	基準年	H 15年	
	事業遅延によるコスト増 (5)	費用増加額	12億円	便益減少額	26億円		
	<b>事業遅延の理由</b> 全線軟弱地盤であることから、地質調査及び対策工法の検討・実施に時間を要した。						
<b>客観的評価指標に対応する事後評価項目</b> 円滑なモビリティの確保（年間渋滞損失時間の削減） 物流効率化の支援（農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上） 他9項目に該当							
<b>その他評価すべきと判断した項目</b> 特になし							
事業による 環境変化	<b>環境影響評価に対応する項目</b> 環境影響評価、対象外事業である						
	<b>その他評価すべきと判断した項目</b> 特になし						
<b>事業を巡る社会経済情勢等の変化</b> 人口・産業等の社会経済状況の変化 ・江別市人口については、事業化当時90,300人（S60国勢調査） 開通後123,900人（H12国勢調査）に増加している。当別町人口については、事業化当時16,500人（S60国勢調査） 開通後20,800人（H12国勢調査）に増加している。 ・江別市及び当別町の農業粗生産額は、事業化当時（S60）から低下傾向にあります。江別市の野菜類は事業化当時（S60）6.8億円 供用後（H13）11.6億円に増加、当別町の花卉類は事業							

化当時（S60）1.4億円 供用後（H13）7.3億円に増加している。

・江別市の工業出荷額は、事業化当時（S60）と比べて平成13年度までほぼ横ばいである。

当別町の工業出荷額は、事業化後（H5）に比べて平成13年度までに3.4倍に増加している。

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

交通混雑の緩和や冬期の吹雪対策による日常活動圏中心都市へのアクセス向上・物流の効率化・地域プロジェクトの支援など、4車線整備による効果が発現されている。よって、これから先、大きな社会情勢や交通量の変化がない限りにおいては、今後の事後評価の必要性は生じない。

しかし、今後も地域プロジェクトの進展、交通状況等の把握に努め、適切な維持管理を推進し、その費用のコスト縮減に努め、一層の利用の促進を図る。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

特に同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要はない。

特記事項

特になし

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。